

## 日田商工会議所 デジタル委員会 議事録

1. 日 時 令和 8 年 3 月 19 日（木） 10:00～

2. 場 所 日田商工会館 2 階 会頭室

3. 出 席 者

（会頭）瀬戸 亨一郎

（委員長）宮野 大樹

（担当副会頭）谷口 知幸

（専務理事）樋口 恒成

（委員）大塚 智、安田 徳章、東 真吾

（事務局）大石 昭典、永瀬 亜沙美、佐藤 駿、栗野 稔

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

・ 宮野委員長より、委員会の開会が宣言された。本日は事務局の業務ヒアリングの現状報告や、商工ニュースのデジタル移行など、具体的な進捗について議論を深めたい旨の挨拶があった。

2) 議題

①事務局業務ヒアリング・現状調査報告について

・ 宮野委員長より、現在職員向けに実施している業務ヒアリングの進捗について報告があった。

－ 「業務棚卸しシート（超シンプル版）」を Google スプレッドシートで共有し、各職員に直接入力してもらっている。

－ 調査の目的は「責めるためではなく、楽にするための調査」であることを職員に強調し、抵抗感なくざっくばらんに書いてもらうようお願いしている。

－ 調査項目は、業務の頻度、紙の有無、代替可能性に加え、自由記述（手間がかかる業務、二重入力している業務、正直やめたい業務）を最も重視している。

・ 期限と今後のプロセス：約 2 週間前から開始しており、1 ヶ月間程度を目安に調査を行う。次回の委員会までに内容を整理し、デジタル化で効率化できる業務を洗い出す方針が確認された。

②現在の取り組み状況について

・ 事務局より、デジタル化に向けた現状の 3 つの取り組みについて進捗報告があった。

1. 会議の出欠確認：従来のメール・FAX から「Google フォーム」へ変更した。

2. 議事録の作成：手入力から AI ツール「NotebookLM」を活用する形式へ変更し、大幅な時間短縮ができている。

3. ホームページでの活動報告：会議所活動などを写真と文字で頻繁にアップするようにした。

・ 事務局より、「現在、ホームページ上でセミナー等の支援情報と活動報告が混在してしまっている」との懸念が示された。これに対し、新年度からはタブを切り分けて見やすく改修する計画であることが共有された。

### ③情報発信のデジタル化について

- ・事務局より、今年度末（3月15日号）で紙媒体の「ひた商エニュース」を終了し、デジタル配信へ移行する取り組みについて報告があった。チラシを作成し、メールアドレスと公式LINEの登録を呼びかけている。
- ・事務局より、現状の登録者数について「公式LINEが228件、メールアドレスが257件（チラシ配布後に26件増加）」であると具体的な数値報告があった。
- ・これに対し、委員より「全体で約1,600事業所ある中でまだまだ少ない」との懸念が示され、登録者を増やすための議論が行われた。
  - － 委員より：「年2回ぐらい、【重要なお知らせ】としてチラシを郵送してみてもどうか」との提案があった。
  - － 委員より：「登録しないと補助金などの有益な情報が入らないという明確なメリットを伝える必要がある」との指摘があった。
  - － 瀬戸会頭より：「各業界団体でも構成員のメールアドレスを管理していると思う。そういったところからメールアドレスを提供していただくのもよいのでは」との提案がなされた。
- ・事務局より、「年間延べ約1,000件の巡回・窓口支援の際に、個別アタックで登録を進めていきたい」と説明があった。
- ・配信の頻度について、瀬戸会頭より：「従来の2ヶ月に1回のペースではなく、情報の即時性を重視して文字数を気にせず即座にプッシュ配信すべき」との提案がなされた。
- ・決定事項：「いつまでに何件登録を増やすか」という具体的な数値目標を設定し、正副会頭会議・委員会で進捗を追いかけながら登録促進を進めていくこととなった。

### ④議員総会での委員会報告について

- ・宮野委員長より、3月25日の議員総会において、デジタル委員会としてのこれまでの取り組みと3年後のビジョンについて、2～3分程度で報告を行いたいとの提案があった。
- ・これに対し谷口副会頭より、「単なる口頭報告では伝わりにくい。せっかくデジタル化を進めているのだから、スライド（パワーポイント等）を使って視覚的にアピールすべき」との提案がなされた。
- ・決定事項：議員総会ではスライドを使用し、事務局の業務効率化が最終的に会員支援の拡充に繋がるという目的をしっかりと説明する形で報告を行うこととなった。

### ⑤その他

- ・瀬戸会頭より、職員から提出される日報が、手のかかったものになっているので、もっと簡単に手のかからない方法がないか、また、書類のデジタル保存について問いかけがあった。
  - － コピー機の制限：ペーパーレス化を強制的に進める手段として、「部門ごとにコピー機の印刷枚数（予算）に上限を設定し、上限に達したら印刷できなくする」という荒療治的な運用事例が紹介された。
  - － ホワイトボードの撤去：事務局の外出時の行き先管理が未だにアナログな「ホワイトボード」

で行われている点について、「グループウェア等のシステムでスケジュールを共有し、ホワイトボードは撤去すべき」との指摘があった。

- 事務局より、ホワイトボードでの管理は確認に戻る手間があるため、スマホ等で全員が共有できれば効率的であるとの認識が示された。
- 宮野委員長より、単にシステムを入れるだけでなく、無駄な作業をやめる（捨てる）決断をし、職員自身が変化を「楽しい」と感じられるような意識改革が不可欠であると総括された。

3) 閉会 (10:50)